

令和 6 年度 都立紅葉川高等学校 経営計画

1 目指す学校

文武両道、自主自立の精神を身につけ、たくましく生きる力を育成する学校

スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 他者の話をよく聞くとともに、自らの意見を表明し、適切な行動を選択できる人材を育成する。
- ② 敬愛・協力・気概・自律の理念にのっとり、自己の可能性を育成する。
- ③ 周囲と共存・協働し、積極的に人生を切り拓く力を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 思考力・判断力・表現力を身につけ、それを伸ばすためにすべての教科の学習に積極的に取り組ませる。
- ② 自ら情報を集め、論理的に考え行動できる力の形成に取り組ませる。
- ③ 社会性と責任をもって互いに尊重しあい、適切にコミュニケーションをとれる力の形成に取り組ませる。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① 大学進学への目的意識をしっかりと持ち、高い志望を掲げて努力をする生徒。
- ② 国語・数学・英語・理科・社会の基礎学力があり、さらに深く学ぼうとする生徒。
- ③ 学校生活の規律を守り、広く他人への配慮ができる生徒。
- ④ 部活動、学校行事、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒。

2 中期的目標と方策

(1) 目標

- ① 進路希望を掲げて努力し、目標を達成する力を育成する。
- ② 自ら情報を集め、論理的に考え行動できる力を育成する。
- ③ 社会性と責任感を持ち、自らの規範意識に従って行動する力を育成する。
- ④ 心身を鍛え、困難に立ち向かい、克服していく力を育成する。

(2) 方策

- ① キャリア教育を通し、自己実現に向かって努力をする。
- ② 学習活動を通し、思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力、IT 活用能力を身につける。
- ③ 生活指導を通し、規則を遵守し、豊かな人間性を身につける。
- ④ 特別活動を通し、コミュニケーション能力とリーダーシップを身につける。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学習指導

① 目標

思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

② 方策

ア 授業の改善を図る。

ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりを図り、思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。

・考えさせる発問、考えさせる課題

・文章や図、表を読み取り、その情報を分析し、まとめ、発表する機会をつくる。

イ) 英検取得を目標に、英語 4 技能を育成する。また、文章検定を 1, 2 学年全員に受検させて、国語の読解力や表現力の育成を図る。これにより、受験の筆記試験における基礎力を身につけるとともに、異文化理解とグローバル・コミュニケーション能力の育成を目指す。

ウ) 校内での教員相互の授業見学を 3 回以上、他校の優れた授業実践から学ぶ機会を 1 回以上持ち、授業改善を図る。

エ) Teams やスマスク端末等の積極的な活用を通して、将来の働き方の変化に対応できる人材の育成を目指す。

イ 学力の向上を図る。

- ア) 模試や外部テスト等を、毎年定点観測的に行うとともに結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を組織的に行う。
- イ) 家庭学習を前提とした授業づくりを通して、家庭での学習習慣を身につけさせる。
- ウ) 土曜講習を有効的に活用し、講習のみならず、進学相談、勉強方法の相談、質問、週末の自習等の機会とする。
- エ) スマスク端末とスタディサプリ等の外部学習コンテンツ等の効果的活用で、自学自習できる生徒を育成する。

(2) 進路指導

① 目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図らせる。そのため、生徒の意識を「行ける大学に進学する」から脱却させ、「行きたい大学に進学する」に高める。

② 方策

ア 計画的な進路指導の充実

模試の結果等を教員が分析し、そのデータを生かした継続的な指導を徹底する。模試分析会（教員向け、生徒向け）面接、出願検討会、ケース会議等を行い活用する。

イ 学習機会の充実

ア) 自習スペースの活用や朝学習、放課後勉強会等、学校での学習環境及び機会を整える。

イ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組む雰囲気醸成する

ウ) 長期休業日中や放課後の講習では生徒の学力に応じた学習をさせる。

エ) 「東部学校経営支援センター支所特別指定校」を活用し、外部指導者の指導を受けて、生徒が自主的に学習に取り組む施策を充実させる。

ウ 学校推薦型選抜や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。

進路指導部を中心に面接や小論文指導を全教員体制で行う。

エ 大学入試における総合型選抜への対応

「行きたい大学に進学する」ため、筆記試験で入試にチャレンジさせる方針は堅持しつつ、総合型選抜受験への対応のため「総合的な探究の時間」「人間と社会」の内容や指導方法の検討を行い、充実した探究活動を行う。

オ キャリア教育の充実

ア) 高校生活の目的意識を深めさせるため、将来働くことの意味や生き方を考えさせる。

イ) 自己理解を深め、早期に自己の在り方・生き方への目標をもたせる。

(3) 生活指導

① 目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

② 方策

ア 規律指導の徹底

ア) SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。スマスク端末活用ルールの各自の設定と徹底。

イ) 年間3回いじめアンケートを実施し、いじめが疑われる申告があれば「いじめ検討委員会」メンバーで検討を行い、未然防止、早期発見及び早期対応に結びつける。

イ 美化活動

ア) 日常的な美化活動に務め、校舎内の環境委整備を進める。

(4) 特別活動

① 目標

他者の話をよく聞き、自らも伝え、異なる意見を持つ者同士がやり遂げる経験を通して、人間関係調整能力、自己肯定感、主体性を高める。諸活動を通して共同体意識を醸成し「相手に何ができるか」を考える人材を育成する。

② 方策

ア 学校行事

体育祭・文化祭・合唱コンクール等学校行事では、実行委員会を中心に、生徒が主体となって活動する機会を多く設定する。

イ 部活動

ア) 部活動加入率を高める。

イ) 部活動指導員・外部指導員の活用等により、専門性の高い指導を行い、技能の向上を図るとともに教員の負担軽減を目指す。

ウ) 練習内容や練習計画を見直し、効率的で効果的な活動を行う。

ウ 地域との交流活動の活発化

地域行事や施設等への参加や手伝いを行うとともに、特別支援学校や小中学校との交流活動を行う。

エ 学校 2020 レガシーの推進

オリンピック・パラリンピック教育で育成を目指した5つの資質の育成を今後も継続し、共生・共助社会の形成を担う生徒の育成につなげる。

ア) アスリート・文化人等との交流活動を年間1回以上実施する。

イ) グローバル人材育成のために「海外学校間交流推進校」の施策を通して、海外にルーツのある学生等との交流等を行い、生徒の多文化交流及び多文化理解を進めて、国際感覚を育てる。

(5) 学校経営

① 目標

社会の変化や要望に対応した教育活動を組織的に行える学校とし、「丁寧な指導」をモットーに全ての生徒の伸びしろで勝負する学校とする。その際は、誰一人取り残さない学校づくりを土台として、必要に応じて合理的配慮を行う等、生徒の実態に応じた特別支援教育を行う。また、ライフ・ワークバランスを確保できる環境をつくる。

② 方策

ア 人材育成

ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。前例踏襲型ではなく、課題解決型で職務を遂行する。

イ) 主幹教諭、主任教諭から若手教員等への指導を徹底する。

イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し

ア) 会議時間を短縮する。(会議時間は50分を上限とする。)

イ) 起案文書の電子化の徹底を図る。

ウ 勤務時間外の在校時間を減らす

部活動で部活動指導員等を活用し、引率や指導を必要最少の人数で行い、ライフ・ワークバランスを確保する。
週1日の、全教職員午後5時台帰宅を目指す。

エ 服務事故防止に努め、信頼される学校をつくる。

ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学支援金等の個人情報の取り扱いは、規程を遵守する。

イ) 部費の管理を規程に基づき適切に行う。

ウ) 服務事故防止研修を年間2回以上開催するなど、体罰・暴言等信用失墜行為を未然に防止し、服務事故ゼロとする。

オ 適正な予算執行と施設管理の徹底

ア) 会計処理は、正確かつ迅速に行う。

イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に行う。

ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応するとともに、老朽化した敷地内のリノベーションを進めて、来客はもちろんのこと、在校生が誇れるような校内環境を目指す。

(6) 募集・広報活動

① 目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携し、組織的な広報活動を全ての教職員で行い、本校の特色を中学生及びその保護者に広く周知する。

② 方策

ア 情報発信の強化

ア) ホームページ等のリニューアルと更新頻度の向上。

・行事や集会、部活動の取り組み等生徒の日常の様子をタイムリーに掲載する。

イ) 保護者への情報発信

・保護者向けのお知らせや案内を掲載する。

イ 募集対策の強化

ア) 中学校及び学習塾への訪問を必要に応じて教職員で行う。また、生徒には近況の報告をさせるため、出身中学校や学習塾を訪問させる。

イ) 学校説明会や授業公開では中学生や保護者に環境整備を含め丁寧な対応に努める。

(7) 安全・防災・健康教育

① 目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

② 方策

ア 防災訓練

避難訓練、防災訓練を強化し、災害時における初期の基本動作を身につけさせる。

また、江戸川区、消防署及び地域と連携した防災教育を推進する。

イ 交通事故防止

セーフティー教室や朝の登校指導等で自転車の乗り方指導を行うとともに、自転車保険へ加入させる。また、全校生徒のヘルメット着用の徹底をすすめて自転車安全教育を推進する。

ウ 健康管理及び教育相談

- ア) スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、当該学年、生活指導部、管理職間で情報を共有する。
- イ) 教育相談センターや専門医派遣事業等を活用するとともに、SOSの出し方を様々な機会伝える。
- ウ) 生涯スポーツの観点に立ち、運動やスポーツとの多様な関りを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインする資質や能力を育成するため、効果的な体育健康教育を実践する。また、これにより生徒の体力の向上を目指す。

エ 感染症対策

新型コロナウイルスをはじめ感染症対策は、今後の感染状況の動向をにらみながら確実にを行うと共に、保健所、学校経営支援センター、学校健康推進課と連携を図る。

(8) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	令和5年度実績
ア 生徒の本校に対する満足度	90%	87%
イ 生徒の授業に対する満足度	90%	88%
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	90%	82%
エ 生徒の行事に対する満足度	90%	89%
オ 生徒の部活動に対する満足度	90%	90%

② 生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	令和5年度実績
ア 4年制大学進学率	70%	64%
イ 日東駒専の合格者数	35名	34名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	8名	5名

③ 生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	令和4年度実績
ア 推薦による入選の応募倍率(男女平均)	3.8倍	2.89倍
イ 学力検査による入選の応募倍率(男女平均)	1.6倍	1.50倍

④ 生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	令和4年度実績
ア 1・2学年家庭学習時間：平日1時間以上の割合 (第2回スタディサポート結果)	50%	1年 18.3%
		2年 13.1%
イ 部活動加入率(10月1日時点)	90%	88%